

今年度の重点目標	具体的な取り組み		実施状況・成果	評価の観点	達成度判断基準	判定	来年度に向けて
評価に基づく保育改善	学年会、担任会等の充実	学年会、担任会などを計画的に実施し、ねらいや幼児の育ちを共通理解しながら保育を実施する	- 職員朝礼で、教員一人一人が本日のねらいや幼児の様子について伝え合う時間を設けた。そのことにより、他学年の状況やお互いの保育観の理解が深まると共に、全職員での共通理解につながった。 - 毎日、幼児降園後に短時間の学年会を実施した。保育の振り返りを行い、幼児の姿だけではなくねらいや必要な環境の構成、教師の援助について話し合い翌日の保育に反映させた。 - 学年会を実施し、週案を作成すると共に、中期、長期的な計画について話し合う場を設け、見通しをもてるようにした。 - 必要に応じて担任会を計画、実施した。日々の保育はもちろん、行事においても、各学年のねらいを共有し実施することができるよう努めた。	学年会、担任会などを計画的に実施し、ねらいや幼児の育ちを共有しながら保育を実施することができたか	A：できた B：8割程度できた C：5割程度できた D：できなかった	A	- 引き続き職朝等を利用し、日々の保育について共通理解を図る。 - 今年度と同様に学年会、担任会を計画的に実施する。
		週案や保育記録などからねらいをもとに保育を振り返り、環境の構成や教師の援助の有意性を考える	- 昨年度作成した週案フォーマットを利用し、個人、学年による週案の立案、PDCAサイクル（前週の姿、そこから考える今週のねらい、ねらいを評価するための観点、ねらいを具体化する内容、ねらいに向かうために必要な環境の構成と教師の援助を計画し、週末にはねらいについて振り返り次週につなげる）による保育の振り返りかえりを行った。 - 保育記録による保育の振り返りを十分に行うことができなかった。	週案や保育記録などから保育を振り返り、環境の構成や教師の援助の有意性を考えることができたか	A：できた B：8割程度できた C：5割程度できた D：できなかった	B	- 週案を利用し、保育を振り返り、環境の構成や教師の援助の有意性を考える仕組みを継続させていく - 保育記録について、内容を模索していく。
		週案フォーマットを作成する。	昨年度作成した週案フォーマット（試案）を使用しながら、項目や内容の検討を進め、週案フォーマットを作成した。また、一年を通して各学級の週案を職員が自由に見ることができるように、職員室ミーティングテーブルに提示した。	週案フォーマットを作成することができたか	A：作成できた B：8割程度できた C：5割程度できた D：できなかった	A	週案フォーマットを使い、週案の作成を継続させていく。
生活文化的体験活動、自然体験活動、社会的体験活動の充実	自然体験の充実	幼児の年齢や生活経験を考慮し、自然環境を見直し、整備する	- 今年度新たに夕日寺自然公園、中山町の田を活動拠点とした自然体験プログラムを作成、実施した。園の生活とのつながりを考え、園庭に衣装ケースを利用した田圃を設置したり、テラスで稲架掛けをしたりした。 - 保護者による園芸サークルと連携し、年間を通して前庭の畑を活用し野菜の苗植え、収穫を行った。また、プールサイドの畑やプランターなどを活用し、トマト、キャベツ、ジャガイモ、サツマイモなどの野菜を栽培した。しかし、年間を通して十分に活用することができなかった。 - 教師が園庭の自然物を把握し、幼児の遊びや生活に積極的に取り入れた。 - 幼児が自然物に興味関心を示すことを願い、保育室内に自然物だけではなく、自然物に関連する図鑑や写真などを提示するスペースを整備した。	幼児の年齢や生活経験を考慮して、自然環境を見直し、整備することができたか	A：できた B：8割程度できた C：5割程度できた D：できなかった	B	- 栽培計画を見直し、年間を通して畑やプランターを有効に活用する。 - 広い視野で園庭の自然環境を捉え、遊びを豊かにする自然物について探っていく。
		幼児の年齢や生活経験を考慮し、幼児にとって有意義な行事になるよう工夫し実施する	- 今年度はコロナ禍のため、親子行事はやむを得ず中止したが、多くの行事は縮小したり、運営方法を改善したりしながら、ねらいに沿った内容になるように工夫し実施した。 - 年長児宿泊体験は内容を吟味し、お父さんボランティア協力のもと、日帰りで実施した。幼児、保護者共に有意義なものとなった。 - お茶会、もちつき、味噌汁昼食は、保護者と協力し、幼児の体験の場を確保できるように運営方法を見直し実施したことで、幼児の学びは深まった。 - 健康診断は、年齢や一人一人の育ちを考慮すると共に、実施時期を検討し全ての項目を終えることができた。 - 季節に関する行事などでは、当日を迎えるまでや行事を終えた後に、学級や学年で計画的に製作、絵本、歌、手遊びなどを取り入れ、幼児にとって有意義な行事となるよう取り組んだ。 - のびのびフェスティバルやのびのび表現会では、幼児一人一人が自分の力を思いっきり表現することができるように願い関わったが、まだ考慮できる余地があった。	幼児の年齢や生活経験を考慮し、幼児にとって有意義な行事となるよう工夫し実施することができたか	A：できた B：8割程度できた C：5割程度できた D：できなかった	B	各行事の内容を吟味し、幼児にとって有意義なものとなるよう模索していく。
	行事の充実	感染症対策を講じながら、計画的に実施する	- 感染症予防に対して、どのように、どこまでの対応を講じていけばよいのか、悩みながらの取り組みであったが、状況に合わせて行事を見直し、職員で共通理解を図りながら計画的に取り組んだ。また保護者に行事を行う際の園の思いや幼児の学びについて伝えるように努めた。 - 保護者が行事を参観する際は、参加人数の制限を行い、基本的な感染予防はもちろん、受付で健康チェック表の提出や検温などを実施した。その際、係の保護者の方と事前に打ち合わせを行い、園の思いを伝えたり、役割を確認したり、連携を図りながら進めた。 - ICTを活用し、オンラインによる学年懇談会を実施し、おたよりだけでは伝わりにくい園や担任の思いを伝える場をもった。	感染症対策を講じながら、計画的に実施することはできたか	A：計画以上にできた B：予定通りにできた C：予定の5割程度行うことができた D：できなかった	A	引き続き、感染状況に応じて、基本的な感染予防はもちろん必要な配慮を行いながら実施を模索してく。